

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107827		
法人名	医療法人 中山医院		
事業所名	グループホーム四季の里		
所在地	岡山県岡山市北区西山内101-2		
自己評価作成日	令和5年3月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した医療機関が母体で、日頃から顔馴染みの関係が出来ている。安心と信頼を大切に、家庭的な雰囲気の中で、ご利用様が穏やかな日々を過ごせるような援助を目指し、時間に束縛されることなく柔軟な対応ができるよう努めている。ご利用者本人、ご家族の意思を尊重しつつスタッフ全員で考え工夫しながら日々のケアに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年	3 月	20 日

地元の医院が運営するグループホームで、入居者には親しみのある生活空間の延長で、家庭的な雰囲気の中で穏やかに時間が流れている感じがします。職員のチームワークも良く明るく生き生きとしている姿から入居者にも良いケアが提供できていると思われます。各ユニットの管理者はそれぞれ職員から信頼を得ており、職員も安心して働きやすい職場で勤続年数も長い職員が多く、入居者や家族の安心と信頼に繋がっている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	四季の里全体の理念とは別にグループホーム独自の理念を掲げ職員全体で共有し日頃から意識づけ、実践出来るようにしている	家庭的な雰囲気の中でゆっくりと過ごせるように、職員全員が地域との繋がりを大切にしながら、入居者と関わっています。家事を入居者と職員で一緒に行うことで、家にいるような雰囲気を作っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦により、四季の里祭り及び地域の祭りも中止が続いており、地域とのかかわりは減っているが、地域の清掃に参加したり婦人会のボランティアの受け入れなど少しずつ復活している	入居者は地域の方が多く、事業所は地域の一部として存在しています。地域の方も気軽に立ち寄れる場所として存在しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で認知症の方の生活などお伝えしたり、地域のサロンへの参加で理解を深めていただくように努めていたが、現在はコロナによりサロンの参加は中止している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議室が手狭で地域の参加者も高齢の方が多く、会議は中止しているが2ヶ月に1回書面にて一方的な報告のみを行っている。状況をみながら開催したいと思っている	コロナ禍前は事業所に家族、町内会長や民生委員の方、老人会の方、地域包括支援センターの方々を招いて運営推進会議を開催されていましたが、コロナ禍になってからは、事業所から定期的に会議録を地域の方々に発送されています。	会議録を発送する際に、課題や要望をお願いするアンケート用紙などを同封し、会議についてのご意見を返信してもらい、頂いたご意見を参考にサービスに反映されていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナにより運営推進会議は中止しているが、地域包括の方への報告は続けている。今後も密に連絡を取り協力関係を続けたいと考えている	地域包括の担当の方や、ケースワーカーとのやり取りがあり、何かあった時は相談できる関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘束についての勉強会を通して、繰り返し正しい知識を深めるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はフロアも玄関も開錠していますが、夜間は玄関を施錠しています。スピーチロックについても勉強会で職員間で話し合い、ケアの質の向上に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に勉強会で学び虐待防止に努めている。虐待が見過ごされることがないようにスタッフ間の報告、連絡、相談を徹底し、注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回勉強会を行い制度について学ぶ機会を設けている。成年後見制度を活用している入居者もあり今年度新たに活用を進めている状況でもあるため、スタッフの知識を深めていく必要があると考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書をお渡しし、予め内容を確認していただいている。その上で契約時に不安や疑問点を伺い、理解納得されたうえでの契約としている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、面会を制限しているため、お便りや電話等で入居者の状況をお伝えしている。気がかりなことや要望などをお聞きし、その内容を日ごろのケアに役立てたり介護計画へも反映させるよう努めている	入居者と職員の信頼関係ができており、日々の細やかな要望も入居者から発信することができ、職員も対応しています。家族からの要望も聞き入れ、ケア方法に取り組むようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット会議で出し合った意見や提案など、管理者会議で検討、反映を行うようにしている。コロナ渦により親睦会は控えているが代表者は時々現場に顔を出し、相談しやすい雰囲気作りが出来る	2ユニットありますが、各ユニット毎に会議を行っています。会議では積極的に職員からの意見が聞かれ、反映されています。(会議で言い辛いことなどは管理者は個別で職員から話を聞くこともあります。)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は、本人の意向を重視しながら職場内で活かせる環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会は毎月行っており、施設外の研修への参加も年間計画を立てて参加している。コロナ渦の間中止も多かったが今後も積極的に取り入れていきたいと考えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦により施設外へ出かけての研修や交流する機会は減っているが、インターネットを通じて情報を集めるなどして、サービスの質の低下を招かないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった場合は必ず本人に心身の状態や思いに向き合うようにし、スタッフ全員で内容を共有した上で本人に受け入れられる様な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、キーパーソンを中心に家族の不安、要望等に耳を傾け、家族関係を理解し不安を軽減できるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族という雰囲気大切に一人一人のスタッフが入居者と過ごさせてもらっている。作業、調理、掃除などを強要せず本人の意向に添って一緒に行うように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きを2ヶ月に一度のお便りや電話などを通して共有に努め、ご家族と共に本人を支えていけるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦により、現在外出は控えているが、当法人のデイサービスを利用されている知人に会いに行ったり、デイサービスから来られたりしている。また、訪問理容も長年同じ方が来られ顔馴染みとなっている	入居年数の長い入居者が多く、事業所自体が馴染みの場所、入居者の居場所となっている方もおり、入居者の変化に応じて馴染みの場所との関係支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ、食事などは、スタッフも一緒に会話を持つよう努め、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、何かあれば相談してもらうよう声掛けをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情から真意をくみ取ったりそれとなく、確認したりしている。情報は申し送りノートなどでスタッフ全員で共有している	入居契約時には、生活の意向や看取りについて、本人と家族から意向を聞き取り情報を共有しながら、時間の経過と共に変わっていく状態に合わせて、日々のケア方法をその都度話し合いを行いながら支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人や家族からこれまでの生活の様子などを聞き取り、また、日々の生活の中からもコミュニケーションをとって把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を細かく観察し個人記録に記入している。必要と思われることは申し送りノートを活用し状態把握が出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回カンファレンスを行い利用者の情報を共有し、援助内容等を話し合っている。本人や家族からの希望や、スタッフ、医療職からの情報なども含め、介護計画を作成している	ユニット会議の中で、ケア方法について話し合い、ケアプランに反映されています。	家族からは自立に向けた希望が多いようですが、今後も入居者の現状を家族に伝え、計画についての相談も行っていけたらと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し日常的に問題の共有、改善に努めている。日々のようすを細かく個別記録に記入することにより介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めるように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みある地域資源を活用できる状況下でなかったため、施設内で本人らしい暮らしができるよう支援してる。徐々に美容院、スーパー、公民館など、地域への外出も行って行きたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の母体が医療機関であるため日頃からかかりつけ医として良い関係が築けている。また、本人や家族の希望を大切に、他の医療機関への受診も自由で、適切な医療が受けられるよう支援している	母体の医師を希望する入居者、家族がほとんどで、母体医院以外の病院受診は、職員の介助で受診を行っています。また、歯科は訪問診療を利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで報告、相談を行っている。また、特変時には、休日深夜問わず24時間対応してくれる体制が整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に対して情報の提供を行い入院中も情報交換や相談などを行っているまた、退院時は家族、医療機関から情報をもらい安心して戻って来られる関係作りにも努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族へ看取りの指針について説明させていただき、終末期に入る際指針を元に、家族と話し合う機会を設けている。記録物や申し送りノートを活かし医療職と介護スタッフが協力して支援する体制が出来ている	事業所での看取りを希望する入居者、家族が多く、看取り期になると、24時間体制で母体の医師や看護師が対応し、管理者も常時連絡を受ける体制がとれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを整備し、勉強会等で周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的計画を立て、年2回(うち1回は夜間想定)定期的に避難訓練を実施している。地震、水害時のマニュアルも作成し周知している	避難訓練は年に2回実施されています。また地域の消防団の方の協力も得て、水害の危険が迫って来た時には連絡をもらえるように体制ができています。災害に備えて水や食料などの備蓄も準備されています。	災害の種類によって、それぞれにシミュレーションを行う等で、実際に入居者全員の避難に要する時間等の把握などにも役立てればと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合わせた声掛けや対応を心がけている。声の大きさや言葉使いなど会議で話し合うなどして職員間で共有し改善に努めている	入居者個々の心情に配慮した声掛けができるように、職員間同士や会議の中で話し合われています。入居者の情報やケア方法は職員間で共有されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を表しやすい声掛けや雰囲気作りに努め、本人の能力にあった支援を行うよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしないように心がけている。その日その時の体調や気持ちに配慮した支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的には本人の意思で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。また、整髪や髭剃りなどは鏡をみて行うよう声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にも出来ることを手伝ってもらいながら準備片付けを行っている。職員も同じ食事を一緒に楽しみ食べこぼし等のサポートもさりげなく行っている。月1回程度要望を取り入れた自由献立の日をつくらせている	おしぼりの準備、野菜の皮むき、お茶くみや配膳などを行ってもらう中で、入居者の役割ができています。また、季節や行事の料理を職員と一緒に作り、食事の楽しみを感じられる様に支援されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や一日の摂取量を記録し把握している。カロリー不足や栄養の偏りがないよう気を配り、水分摂取しにくい方は、とろみや甘味をつけたり、ゼリーにして取っていただくなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に口腔ケアを促し、援助が必要な方は手伝うなど、清潔保持に努めている。義歯の方には毎晩、義歯洗浄剤を使用し歯ブラシ、コップは週1回消毒をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつけ、個々の排泄リズムを把握し、少しでも失敗を減らしていけるよう声掛けや誘導を行っている。また、紙パンツから布パンツへ移行出来るよう取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換の時間も個々に対応しています。排泄用品の変更が必要な時は、家族と相談し本人が気持ちよく過ごせるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物、乳製品を毎日摂取して頂き、水分補給もこまめにしてもらいなど、個々に合わせて工夫している。また、無理のない範囲で体操なども行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否する入居者には、声掛けを工夫したり別の日に延ばしたりなど無理強いしないようにしている。入浴剤やゆず湯なども利用し長湯を好む方には本人の望む入浴が出来るようにしている	週2回の入浴で、浴槽に浸かる事が困難な時はシャワー浴をしています。快適な癒しの時間になるよう、又気分転換にもなる様工夫しながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はいつでも居室で休息出来る環境作りに努め、夜間も消灯時間に限らず個人の希望を尊重している。室温の調整や転落防止など安心して休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が一人一人の薬について確認し変更時には申し送りノートを活用し、周知している。症状に変化が現れた場合は、医療への報告、相談を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を依頼し感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの状況下では外出の機会は減っているが、自然を感じながらの屋外散歩や個別ドライブなど工夫して外出支援を行っている	事業所の前に川が流れており、季節の桜や紅葉を楽しむことができ、散歩の機会が多く、知り合いにもあって話が弾むこともあります。また気分転換に利用者の家の近くまでドライブするなど感染予防に気を付けながら外出支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は預かっており、管理簿をつけて月に一回ご家族に確認してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には本人自らが電話をしたり、かかってきた時には取り次ぎも行っている。コロナ渦により、面会より電話でのやり取りが増えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物など季節感を取り入れ心地よい空間作りに努めている。また、居室やトイレなどに貼紙をするなどして混乱を招かないよう工夫している	ウィルス感染予防で定期的に換気を行う時や暖房機の風を寒く感じる入居者など、個々に体感温度に違いがある為、衣服で調整したり、工夫を行いながら安心して過ごせる様に空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の思いに添った自由な生活を支援している。ソファでの談話やテーブル席で新聞や雑誌を読んだり手作業をしたり、居室で好きなテレビを観られたりと、それぞれが思い思いに過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物を持って来て頂くよう本人や家族に伝えている。家族の写真や塗り絵などの作品を飾るなど心地良い空間作りを工夫している	それぞれ好みの居室作りで、担当職員が毎日居室の掃除機かけを行っています。入居者には職員で各担当者が決まっており、個別に衣替えをしたり、カーテンを洗ったり、大掃除をしたり、季節に添った援助を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ること出来ないことを探りながら役割をお願いしている。人の役に立つことで自信につながるよう支援している		